

学校教育目標	よく学ぶ子 心豊かな子 たくましい子
目指す学校像	みんなの笑顔が輝く学校「ス(進んで学ぶ等)マ(まっすぐな心等)イ(一生懸命等)ル(ルールを守る等)みなみ」
重点目標	1 学習者一人ひとりが主体となる授業づくり 2 児童一人ひとりに寄り添った教育支援をするための共通理解・共通行動の実施 3 地域に愛される「南小」の歴史をつなぐコミュニティ・スクールの実施 4 安心安全な学校であり続けるための教育環境の整備 5 教職員一人ひとりのよさを発揮できる職場づくりと働き方改革の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学校自己評価					学校運営協議会による評価	
		年度目標			年度評価		実施日令和8年2月12日	
		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○協働的な学びについては、各学年で工夫した授業を行うことができている。 <課題> ○昨年度の全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」について、算数は「変化と関係」についての問題に課題がある。 ○高学年になるにつれて習熟度の二極化が見られる教科(算数)がある。	個別最適な学習の実施	①各学年において「カリマネデザインマップ」見直しの時間を設定し、児童が学び方を選択することができる授業を行う。 ②毎週金曜日に「基礎学力パワーアップタイム」を実施し、スタディサプリ、ドリルパーク等を活用することを通して児童が学習履歴を確認し、学習計画を設定する等主体的な学習をする。	①カリマネデザインマップを修正(教科横断的な学びの視点、時数の見直し等)し、児童が学び方を選択することができる授業を行うとともに、次年度の教育課程を作成することができたか。 ②学校評価「学習指導」「授業が分かりやすい」の項目を9割以上とすることができたか。	①年間を通して随時カリマネデザインマップを修正し、教科横断的な学びの視点から編集することができた。 ②「基礎学力パワーアップタイム」において、スタディサプリやドリルパークを活用した基礎的な反復・習熟として、自分に最適な学習内容に取り組むことができた。 ・「学習指導」「授業が分かりやすい」の項目：児童92%、保護者91%	B	・次年度は「いつでもどこでも見える編集できるカリマネデザインマップ」を目指し、職員室等に掲示し、学年間のつながりを意識したデザインマップとなるようにしていく。 ・児童一人ひとりがより主体的に学ぶことができるよう、指導と評価について研修を行っていく。
		○昨年度の全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」について、算数は「変化と関係」についての問題に課題がある。 ○高学年になるにつれて習熟度の二極化が見られる教科(算数)がある。	学習者が主体となる「学びのポイント(じ・し・や・く)」の授業づくり	③「学びの指標アンケート」及び学校独自アンケートを5月、12月に実施し、1回目の結果考察、全国学力学習状況調査の振り返りを行う。 ④学校課題研修において、「学びのポイント(じ・し・や・く)」を意識した授業づくりを実践する。	③「学びの指標アンケート」及び学校独自アンケートにおいて1回目自校平均よりも向上することができたか。 ④指導訪問、要請訪問、校内授業研究会において、授業改善の視点や手立てを設定した授業を実践することができたか。	③学方向上学校カウンセリング訪問を通して、本校児童の課題を見出し、学年で共通理解をすることができた。 ・学びの指標アンケート「主体的な学び」0.02ポイント、「ICTの効果的な活用」0.04ポイント上昇 ④学校課題研修等の校内授業研究会を通して、「学びのポイント(じ・し・や・く)」を意識した研究授業を行い、日々の授業に生かすことができた。本校児童の課題を見出し、共通理解をすることができ、授業の進め方、指導方法の工夫等について話し合うことが増え、授業改善をすることができるようになった。	B	・「学びの指標アンケート」については教職員の個人差が見られた。結果を考察し、指導方法の工夫改善を図り、指導の充実を図る。 ・学校課題研修及び教員のキャリア段階に合わせた資質向上を図ることができるよう、成果と課題を明確にするとともに、教職員同士が授業を参観する場を設ける等の改善を図ることができるようになった。
心のサポートに関する取組	2	<現状> ○「心と生活のアンケート」において信頼自己がDE評価の児童が19%いる。 ○毎朝入力をしているおはようメーターの「おはよう気持ち」「おはよう体調」について「悪い」「とても悪い」を毎日選択する児童が一定数いる。 <課題> ○「その日のことはその日のうちに」を合言葉に全教職員が共通理解のもとで「報告・連絡・相談・確認・見届け」を丁寧、迅速に行う必要がある。	児童一人ひとりに寄り添った教育支援・教育相談体制の充実	①おはようメーターの集計を毎日確認し、「気持ち」「体調」について「悪い」「とても悪い」を選択した児童の見守り、声掛けを行う。 ②児童向けの「心と生活のアンケート面談」と「スマイル月間(本校独自の個人面談)を学期に1回ずつ実施したり、保護者向けの教育相談日を毎月設定したりし、児童が安心して生活できるようにする。	①学校評価「学校に行くのを楽しみにしている」の項目で、保護者・児童の肯定的な評価が9割を超えたか。 ②学校評価「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目で、肯定的な評価が保護者・教職員ともに9割を超えたか。	①児童がおはようメーター入力の習慣をつけることができるようになった。「悪い」指標の回答が続き児童に対する見守り、声掛けをすることができた。 ・「学校に行くのを楽しみにしている」の項目：児童92% 保護者95% ②「生徒指導」「教育相談」「組織運営」肯定的な評価83%	B	・教職員がおはようメーターを確認する習慣をさらにつけ、児童のSOSにさらに迅速に気付くことができるようにする。 ・学校評価「教育相談」等の項目について「わからない」が12%であったため、次年度は、保護者と担任が直接会って話す個人面談等の内容の充実を図っていく。
		○「その日のことはその日のうちに」を合言葉に全教職員が共通理解のもとで「報告・連絡・相談・確認・見届け」を丁寧、迅速に行う必要がある。	積極的な生徒指導を実現するための共通理解・共通行動の実施	③「心のサポート週報」による情報の共有や蓄積など、気になる児童の情報を共有する。 ④生徒指導対応をする際は、複数で聴き取りを行う、保護者と連携する、記録をとる等の共通行動をする。	③気になる児童について、「その日のうちに」情報を共有し、面談、保護者への連絡等ができたか。	③欠席が続く児童、児童同士のトラブルやけがについて「その日のことはその日のうちに」の徹底をすることができ、担任、学年主任、養護教諭等と迅速に連携をし、保護者への連絡、丁寧な説明をすることができた。 ④生徒指導対応について研修を行い、聴き取り、記録等、学年で連携して対応することができた。	A	・「その日のことはその日のうちに」を合言葉に報告、連絡、相談、見届けの徹底と学年内の連携について繰り返し助言してきた。教職員による意識の差がまだ見られるため、今後も具体的に事例研修等を取り入れながら教員の危機意識向上を図っていく。
地域とともに関わる取組	3	<現状> ○昨年度150周年事業を終え、地域に愛される学校であることを児童・教職員ともに実感することができた。 ○学校運営協議会において目指す児童の姿「チャレンジする心」を家庭、地域などに広めることができた。 ○昨年度の学校評価に係るアンケート「情報発信」「地域・保護者の願いに応えている」の項目で肯定的な評価が9割に届かなかった(89%)。 <課題> ○校内ではあいさつができるが、登下校中は自分からあいさつをすることができない児童が多い。 ○授業公開等を行い、特色ある教育活動についてさらに発信する必要がある。	地域・家庭と連携したいつでもどこでもあいさつできる学校づくり	①あいさつチャレンジデーを複数回実施する。 ②児童が主体的にあいさつキャンペーン等を参画し、実施する。	①学校運営協議会において、本校の課題について熟議を行い、「あいさつチャレンジデー」が実施できたか。 ②児童会主催のあいさつキャンペーンを実施することができたか。	①第2回学校運営協議会において、代表委員児童7名と委員が2グループに分かれて、あいさつキャンペーンの取り組み、あいさつといじめのない学校づくりについて協議を行うことができた。協議を通して、児童の思い、地域の思いをそれぞれが直接知ることができ、1月17日にあいさつチャレンジデーを実施した。 ②毎学期複数回、児童会主催のあいさつ運動、あいさつキャンペーンを実施することができた。 ③各学年が実施する特別講師による授業について2~5回公開することができた。 ④各学年更新回数を表示し、学校ブログを更新することができたが、学年により更新頻度に偏りがあった。 ・学校評価「情報発信」項目：AB評価88%、CD評価9%	A	・「あいさつチャレンジデー」、「あいさつキャンペーン」等を年間で複数回継続して実施するとともに、子どもたちの「チャレンジする心」をはぐくむための啓発を図っていく。
		○校内ではあいさつができるが、登下校中は自分からあいさつをすることができない児童が多い。 ○授業公開等を行い、特色ある教育活動についてさらに発信する必要がある。	「スマイルみなみ」を地域全体で共有するための積極的な教育活動の公開	③各学年が実施する特別講師による授業(薬物乱用防止教室等)を積極的に公開する。 ④学校ブログを積極的に更新する。	③各学年が実施する特別授業やお話会等の公開可能な授業について学校だより、学年だよりで周知し、公開することができたか。 ④月に1回以上学校ホームページの更新及び、各学年各月1回以上のブログ更新を通して、児童の様子や学校の出来事等を保護者や地域の方に迅速に情報提供することができたか。	③各学年が実施する特別講師による授業について2~5回公開することができた。 ④各学年更新回数を表示し、学校ブログを更新することができたが、学年により更新頻度に偏りがあった。	B	・さらなる「開かれた学校づくり」を目指し、次年度は学習のまとめの発表等も公開をしていくようにする。 ・年間で見通しをもったブログ更新をすることで、常に新しい情報が発信できるようにする。
教育環境の整備に関する取組	4	<現状> ○校舎、各教室の空調設備等については、経年劣化はしているが、毎月の安全点検等を行い、不具合があった場合は、その都度対応している。 <課題> ○給食室に導入されているスチームコンベクションオープンが一度も使用されていない。 ○屋上の防水、経年劣化による故障等が随所に見られ、その都度対応をしているが、根本的な修繕はできていない。	安心安全な学校施設の管理	①事務職員と予算状況確認を毎月1回以上実施し、予算の適正執行を実現する。 ②安全点検を確実に行うとともに、修理箇所があった場合の即日対応に努め、事故を未然に防ぐようにする。	①事務職員と予算状況確認を毎月1回以上実施し、適正な執行を実現することができたか。 ②安全点検を毎月実施するとともに、修理箇所があった場合の即日対応、職員集会等で周知し、危機意識を向上させられたか。	①予算委員会を開催し、事務職員とは随時打合せをして、学校に必要な環境整備を迅速に行うことができた。また、会計担当会議を開催し、学年会計担当と事務職員とが執行状況を確認することで、適正な予算執行をすることができた。 ②安全点検を確実に実施し、危険箇所があった場所について迅速に修理等の対応ができた。 ・教職員には職員集会等により、保護者には安心メール、保健だより等で迅速に情報を周知することができた。	A	・学校に必要な環境整備について、管理職、事務職員だけでなく、全教職員が共通理解を図り、適正な予算執行ができるように学期当初から周知を図っていく。 ・計画的に修繕等を実施していくとともに、危険箇所が発見された場合は迅速に対応していく。
		○給食室に導入されているスチームコンベクションオープンが一度も使用されていない。 ○屋上の防水、経年劣化による故障等が随所に見られ、その都度対応をしているが、根本的な修繕はできていない。	安心安全を目指す給食室管理と給食の提供	③給食室内の安全点検を毎日行い、故障があった場合は即日対応して、給食提供に支障がないように努める。 ④スチームコンベクションオープンを使用した給食を提供する。	③栄養士、事務職員と確認を行い、給食室内の設備等に故障があった場合に即日対応をすることができたか。 ④スチームコンベクションオープンを使用した給食を年3回以上提供できたか。	③給食室内の設備等の故障(冷却機、ガス窯、エレベーター等)について、即日対応し、業者に来校してもらうことができた。 ④スチームコンベクションオープンを使用した給食を2学期までに3回提供することができた。	B	・給食室内施設・設備の老朽化に伴い、修繕が必要な箇所が増え、修理をしてもすぐに故障をしてしまう状況である。安全な給食提供ができるよう、教育委員会とも連携をし、迅速に対応していく。
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<現状> ○5、6年生における教科担任制、3、4年生の一部教科担任制、1、2年生の交換授業により、担当教科の専門性の高い教材研究を行うことができている。 ○時間外在校等時間に個人差がある。 ○教職経験年数の浅い教職員が増えている。 <課題> ○全教職員が人事評価に基づき、自身の設定した目標、指導力向上に向けた研修、キャリアに応じた研修を実施していく必要がある。	教職員の適切な健康管理と働き方改革の推進	①学年ごとに月2回以上のノー残業デーを設定するとともに、19時以降は学校に残って仕事をしないようにする。 ②一人で業務を抱えこまないよう、集中しないよう、主任がリーダーシップをとり、業務分担を図る。	①学年ごとに月2回以上のノー残業デーを設定し、見える化、声掛けを実施し、教職員の時間外在校等時間を月45時間以内とすることができたか。 ②学校評価(教職員用)「働き方改革」の項目でAB評価が9割以上の肯定的な回答が得られたか。	①学年ごとに月2回以上のノー残業デーを設定し、見える化、声掛けを実施し、教職員の時間外在校等時間を月45時間以内とすることができたか。 ②学校評価(教職員用)「働き方改革」の項目でAB評価96%	A	・「学校力」向上を目指し、「働きがいのある職場」を教職員一人ひとりが主体的に作っていくことができるよう、学年主任、校務分掌主任等がリーダーシップを取り、業務を行うことができるようにする。
		○全教職員が人事評価に基づき、自身の設定した目標、指導力向上に向けた研修、キャリアに応じた研修を実施していく必要がある。	キャリアに応じた研修の推進	③校内における各種研修、年次研修に加えて、教職員それぞれの強みを生かした教科・領域等について研修を深めることができるよう、夏季休業中等、積極的に研修会に参加できるようにする。	③自身の設定した目標に向けて指導力向上に向けた研修を実施、研修会等に参加することができたか。	③教職員一人ひとりと面談を行い、自身の設定した目標の具現化を図るための方策を考えたことができた。教職員のキャリアに応じて、校内の示範授業参観や研修会等に積極的に参加することができた。	A	・教職員間がよりよい人間関係を築くことができる雰囲気醸成し、キャリアに関係なく、自身の強みを発揮できる職場づくりをしていく。

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともに関わる取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等